

# 総合学科高校での 系列・科目選択、 進学の際の学部・学科選びに

カウンセリング  
事例1

VRT×高校

東京都立晴海総合高等学校  
キャリアカウンセラー

千葉吉裕

## ■総合学科高校における 「職業レディネス・テスト」の活用

総合学科とは、普通科、専門学科に加え、平成6年度に創設された学科です。大きな特色は、幅広い選択科目が用意され、その中から生徒自ら科目を選択し、学ぶことができるシステムを備えていることです。ほとんどの学校では、1年次に、総合学科の必修科目「産業社会と人間」という科目が設けられています。その科目を通して、自己理解を深め、将来活躍する未来社会を思い描き、ライフプランを立て、自己の進路への自覚を深めていきます。キャリアアビジョンを持って、主体的に科目を選択することで、意欲的な学習を行うことができるわけです。

このように、総合学科では、選択の機会が設けられているため、「職業レディネス・テスト（VRT）」は自己の特性を把握するアセスメント・ツールとしてたいへん役立ちます。

## ■系列・科目選択の場面での活用

やみくもに科目を選択してしまうと、体系だった学びができなくなることから、総合学科には「系列」と呼ばれる選択科目群があります。本校では、2年次から「情報システム」「国際ビジネス」「語学コミュニケーション」「芸術・文化」「自然科学」「社会・経済」の六つの系列のうち、いずれかを選択し、学ぶこととなります。

5月、「産業社会と人間」の授業の中で、1年生全員にVRTを実施し、全体に対して解説を行います。10月、系列・科目選択の検討時期に再度、希望者にVRTを実施し、その結果をもとに面談活動を行っています。

VRTが優れている点は、検査時間が短く、自己採点で結果を出せるため、面談の直前に検査したもので判定できることです。どのような意図で回答したのかを聞きながら判定できるので、プロフィールの微妙な読み取りも可能にしてくれます。高校生用のほかの興味検査は、回答用紙を業者に送り、数週間後に結果票が送られてきても、判定の仕組みがブラックボックス化しており、結果がしつくりこなかったり、逆に検査をしなくてもわかるようなものだったり、活用できないことがしばしば起こります。

VRTは性格を読み取ることもできるので、日常あまり意識のない生徒の行動パターンや好みなどをプロフィールから読み取ることもできます。生徒には「占い師」のようだと驚かれます。

## ■学部・学科選びでの活用

高校卒業後の進路選択指導は、高校教師にとって重要な仕事の一つです。

VRTは、名称から誤解されることが多いのですが、就職指導でしか使えないと勘違いしている高校教師は少なくありません。四年制大学・短期大学・専門学校の学部・学科の特徴を理解し

ていれば、VRTのプロフィールから、どの学部・学科に興味を持つか判断することができそうです。それぞれの学部・学科の卒業生が就職する主な職業を調べることによっても、判断することができます。

例えば、「R 現実的」が高ければ、農学部・工学部・工芸学科・調理学科など、「I 研究的」が高ければ、医薬理工系など、「A 芸術的」が高ければ、芸術学部・文学部・演劇学科など、「E 企業的」が高ければ経営学部や歴史学科など、「C 慣習的」は法学部、商業系・簿記・ビジネス系など、興味を持ちそうな学部・学科の学校案内などを見せて、自分の興味とのフィット具合を確認させます。高校生は、知っている世界が狭いため、自分が興味を持ってそうな学部・学科を見つけることにはいへん苦労します。

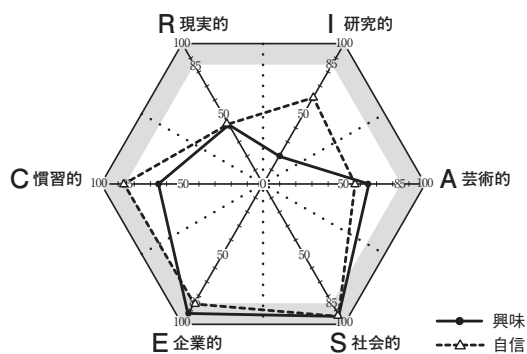
### 事例①

#### 看護師を希望するAさん

彼女は、小学校時代の入院経験がきっかけで、看護師を希望するようになった高校1年生の女子生徒で、面倒見もよく、頑張り屋で、友人からの信望も厚く、心優しく、人気者だ。彼女は、小さいときからの夢を実現したいと、2年次から生物・化学・数学Ⅱという科目を取りたいと希望していた。

VRTを実施したところ、「S 社会的」「E 企業的」がともに高く、「I 研究的」「R 現実的」が低いというプロフィール

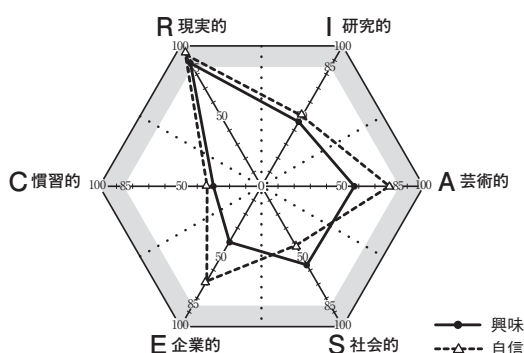
### 事例① VRT 結果プロフィール



「研究的」が低いことから、理系科目への興味が心配されたので、生物や化学は好きかと尋ねたところ、あまり好きではないとのこと。看護師になる夢はあきらめられないと言って、嫌いでも頑張ると言い張る。

しかし、看護師を続ける限り、理科について学び続けなければならず、知識を持っているかいないかで患者の生死を分かつことにもなりかねない。そのような重大な責務があることを話した。サービス職や販売職、福祉系の職業なども提案し、しばらく考えたいと返答。数日後、ここで看護師をあきらめるのは残りなので、2年次で、理科を学んでみて、苦手意識を確認したいと申し出てきた。看護師以外の職業についても調べてみて、将来の進路を探究してみると、前向きに話していたのが印象的だった。2年次の

### 事例② VRT 結果プロフィール



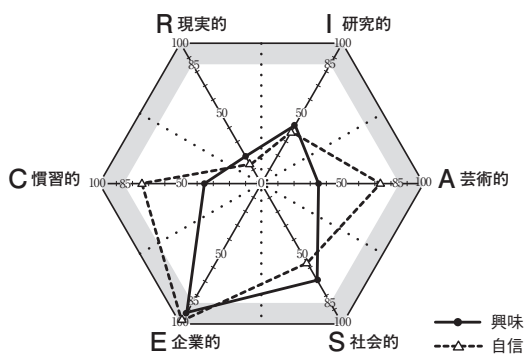
時間割は、理系科目だけにならないように配慮しながら、作成することにした。理系科目が嫌いにもかかわらず、「社会的」の高い生徒で看護師を目指すケースはよく見受けられる。看護系に進学したあと、ミスマッチに気づくこともあり、VRTの実施により、ミスマッチを未然に防ぐのに活用することができる。

**事例②**  
ブライダルコーディネーターを希望するBさん

グランドスタッフに就きたいという友人と一緒に相談に来た1年生のBさんは、結婚式の華やかさに憧れてブライダルコーディネーターに就きたいと語っていた。

VRTを実施したところ、「S 社会的」「E 企業的」も高くはなく、「R 現実的」

### 事例③ VRT 結果プロフィール



が高いという結果になった。「工芸や、栽培、飼育に興味が出ているんだけど」と話したところ、実は仏像を見るのがとても好きで、鎌倉までよく足を運ぶことがあるという話になった。伝統工芸系の専門学校のパンフレットを見せたところ、興味を持ち、体験入学に行ってみようと言いついた。体験入学などに参加するうちに、ブライダルコーディネーターに就きたいという話は全くなくなった。

当初、商業科目を中心にビジネス系の科目を選択するつもりだったが、最終的に美術工芸の科目を中心に選択することになった。

憧れの職業について、表面的な職業イメージだけで職業を選ぶことは、中学生・高校生の時期にしばしば起こる事象である。自分の興味分野を適切に表現できる生徒のほうが少ないように感じられる

### 事例③ 服飾系の専門学校を希望するCくん

くらいだ。本人だけの主張を鵜呑みにすることなく、客観的な検査結果をもとに判定することはとても大切だと感じている。また、頭の中でイメージするだけでなく、実際に体験したり、インタビュしたりすることによって、自己理解を深め、進路情報を適切に活用できるようになるものである。

服飾デザインや縫製技術についてしっかり学びたいと言っていたCくん。服飾販売に強い関心があるとのことだった。

VRTを実施したところ、「R 現実的」「A 芸術的」が低いというプロフィールになった。「E 企業的」が高いので、経営系が向くことを伝えると、将来、アパレル系の店舗を持つことが夢で、そのため、服飾デザインや縫製技術について知っておくと、きつと役に立つと考えたとのこと。「E 企業的」が高いことから、戦略的思考性を備えているために、服飾系の専門学校を志望してしまっただけだ。四年制大学の経営学部を学校案内を見せると、服飾系の専門学校より興味を持てそうな講座が設置されていると話していた。オープンキャンパスに赴き、最終的には経営学部への進学を決定した。

生徒一人ひとりの進路希望には本人の理由はあるものの、その理由に対して妥当な進路希望なのか相談を通して検討していく活動はとても大切な指導である。